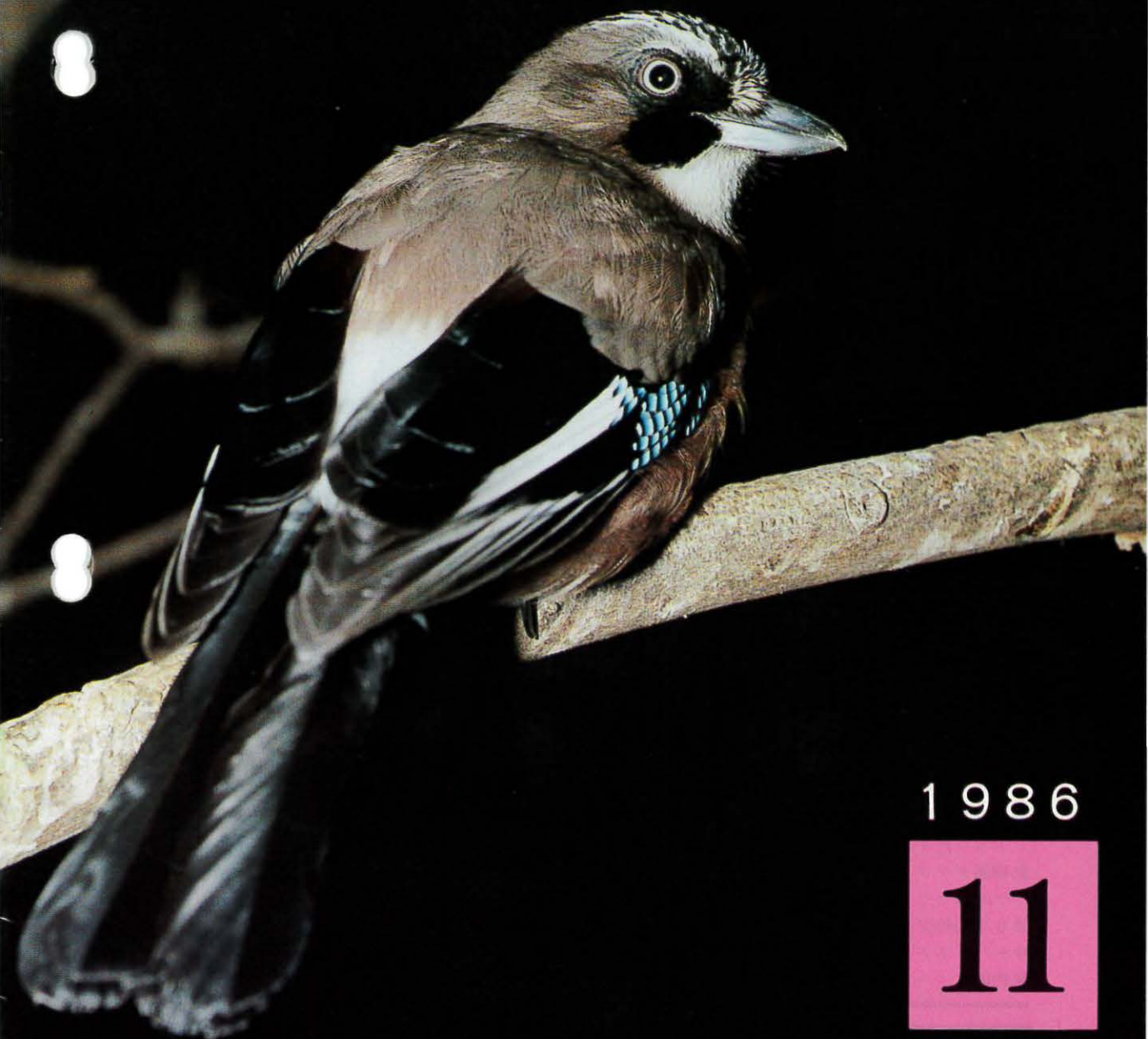




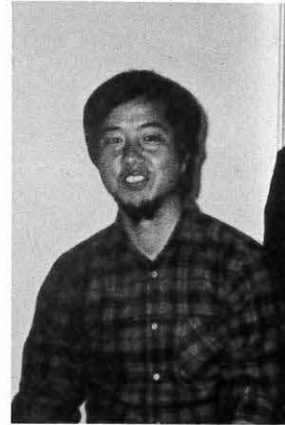
# なきごえ



1986

11

大阪市  
天王寺動物園協会



浜口 哲一

私は「御専門はなんですか？」という質問が苦手である。一般の人なら、「博物館で動植物を担当しています」と答えれば納得してもらえるのだが、生物畑の人からは「一番の専門は昆虫ですか、哺乳類ですか」などと必ず追求されてしまう。「そんなこと言われたって、虫も好きだし、カエルも面白そうだし、植物もおおいに興味があるし、だから博物館で仕事をしてるのさ…」とは、私の心の中の陰の声である。

そんな私だが、何が一番好きかと聞かれれば、やはり野鳥かなと思う。その最大の理由は、野鳥に会いにフィールドへ出る時が一番気分がのびのびとするからである。昆虫や植物の観察をする時は、どちらかというところ、視線を下に向けながら歩くことが多い。ところが鳥を見る目はいつも、梢や空そしてはるか前方に向かい、風景の広がりの中で、めざす鳥を探している。おらかな気分の由縁はその辺にあるのではないかと考えている。

私が野鳥観察の手ほどきを受けたのは、比較的遅くて、大学生の時だった。当時、東京湾の江戸川の河口にある新浜と呼ばれる渡り鳥の多い干潟に埋め立ての危機が迫っていた。新浜を守る会が結成され、大学生や高校生を中心とした若いメンバーが東奔西走して、保護運動に打ち込んでいた。その会に参加を誘われたのが、私の野鳥歴のスタートだった。

初めて訪れた新浜で私はそれまで見たこともなかったさまざまな鳥と出会うことができた。レースのような飾り羽をまとい緑色の目先をしたダイサギ、

白い額をした小太りのオオバンなど、その時の鳥達の姿は、今も鮮明に脳裏に焼きついている。

新浜で始まった私の野鳥とのつきあいは、始めの一步から、鳥達の生きる場を守ることと結びついてきた。高石友也の歌う「鳥達の飛ぶ空を残しておいてやれるだろうか、父さんは……」というフレーズは、常に私の頭に去来している。

十年ほど前、平塚の博物館で仕事をするようになった時、まずぶつかったのが相模川という川の河口にある干潟の保護問題だった。そこは、面積が5ヘクタールほどの小さな干潟だが、シギやチドリの姿が多く、なにより近くで観察できることが魅力的な場所だった。岸辺に座ってじっとしていると、ほんの2、3メートル先をハマシギやキョウジョシギがちょこちょこ歩いて行くのである。

仲間と守る会を作って活動を始め、探鳥会、写真展、県や国への陳情、現地での定期的な調査などに取り組んできた。振り返れば十年間、我ながらまあ頑張ってきたかなと思えるこの頃だが、会の活動の甲斐あってか、干潟は何度かの消滅の危機をまぬがれ、今年も渡り鳥を迎えている。

こうした活動に参加していると、誰も疲れて嫌になることがあるものである。鳥を気楽に見ているだけだったらどんなにいいだろうと何度思ったかしかない。そんな時に私を励ましてくれたのは、「鳥達の生きる場が守られることこそ大事なのだ」という思いであった。鳥の調査をして論文を書くことも必要だが、論文や標本が残っても肝心の、鳥の棲む自然が無くなってしまったら、なんにもならないではないか。自然を守るためにできる事があるなら、それを避けて通らないようにしよう。それが私の動物とのつきあいの大前提である。

野生の鳥や獣や虫達が生きる場である自然を守る、そのことをまっすぐに考えていきたいと思う。

(平塚市博物館学芸員)

表紙の写真説明

“カケス” (*Garrulus glandarius*)

日本では本州、四国、九州に分布しており、鳴声はジェーイッ、ジェーイッととても美声といいがたいのですが、羽色は頭頂の白と黒のまだらや翼の基部の藍色などの目立つ美しい鳥です。(撮影：宮下 実)

なぎごえ11月号もくじ

動物と私 .....2
“ショウガラゴに新顔2つ” ..... 3
動物園グラフ・動物園日記 .....4.5
ワライカワセミの飼育と繁殖 ..... 6.7
第6次動物交流について ..... 8.9
キーパーズアイ ㊸ ..... 10
動物園ニュース ..... 11



“ショウガラゴに新顔2つ”

昨年ひき続きショウガラゴが生まれました ショウガラゴは原始的な猿の仲間です。普通1〜3頭の子供を約4ヶ月の妊娠期間で生みますが、去年は1頭、今年は2頭の出産でした。写真は26日齢時で、右側2頭が子供です。(撮影：森本 委利)

# 動物園グラフ

「このツルなんだ？」

世界中には15種類のツルがいます。天王寺動物園ではそのうち7種類を見ることができます。さて、今回はその7種のツルのアップの写真を集めてみました。ヒントを参考に何というツルか考えてみてください。(撮影：神原安昭)  
(答は左下)



① 最も分布の広いツルで、日本でも、九州で少数が越冬することがあります。



② 日本を代表するツルで、北海道で留鳥として見られる他に中国、ソビエト、朝鮮半島でも見られます。



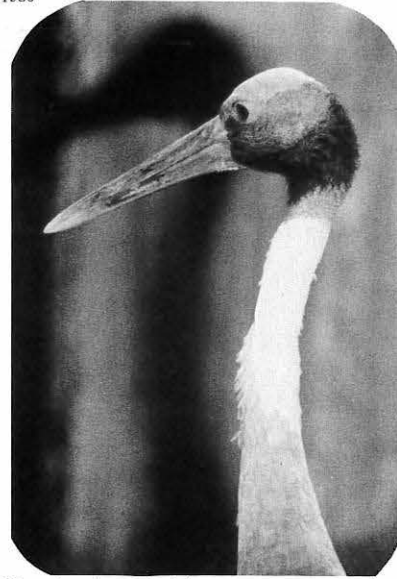
③ シベリアや中国東北部で繁殖し、朝鮮半島や九州で越冬します。

④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

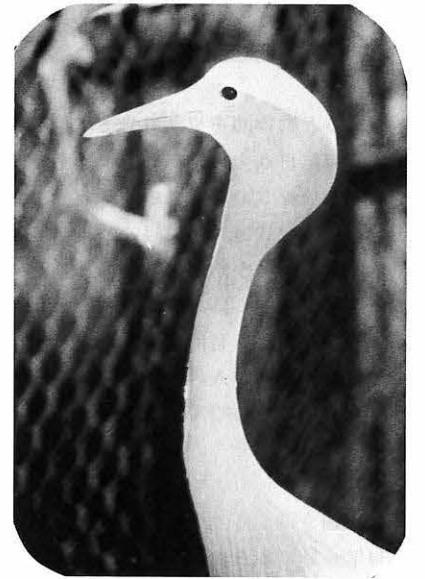
## 9・10月の動物園日記

- 9 / 11. オオヅルのオスが足の関節をいためたらしく治療をはじめました。カムリウズラ舎の土の中に寄生虫の卵が認められるため、土を捨て舎内を消毒しました。
- 9 / 13. シマウマの定期駆虫を行ないました。トラのメス“ミン”と“ノン”は、足の麻痺で8月始めより治療をはじめ室内に隔離していましたが、ほとんどよくなったため屋外運動場に放飼しオスと同居させました。
- 9 / 15. 今年生まれのフクロギツネの子供(メス)とその母親は、展示せず別室にて隔離飼育

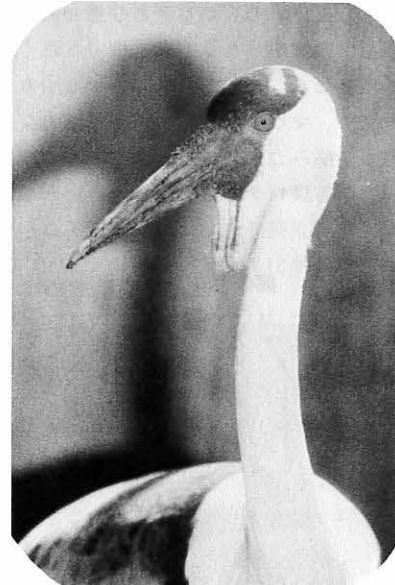
- していましたが、本日展示室へこの2頭を戻し、昨年生まれのオスの子供と同居させたところ、母親が非常に攻撃的になったため、母親のみをまた隔離室に戻し子供2頭の展示としました。
- 9 / 16. キーウィ、ハリモグラ、ハリネズミの体重測定を行いました。
- 9 / 19. 定例飼育研究会を開きました。
- 9 / 20. シマウマのノリコの出産が近いようです。動物愛護週間(26日まで)が始まり、園内では無料動物相談が当園獣医師と開業獣医師によって行われました。
- 9 / 21. 第17回動物のお話とスライドの会「野生鳥獣のお話」を開催しました。



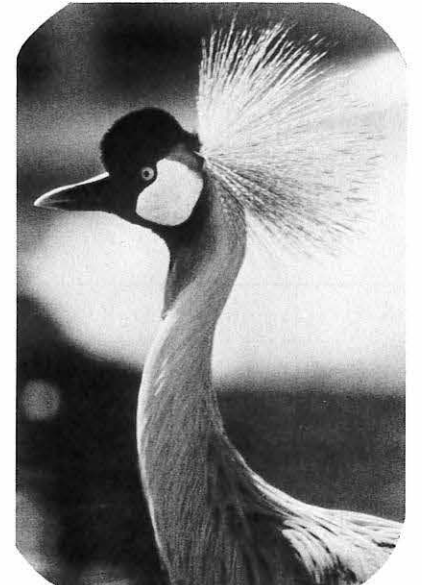
④ パキスタンから東南アジアにかけて分布している全長約152cmの大きなツルです。



⑥ 南部アフリカの草原に生息する全身グレーの美しいツルで、尾より長い三列風切羽が特徴的です。



⑤ エチオピア、南アフリカに分布する大型のツルで、くちばしのつけ根のいぼ状の突起が特徴的です。



⑦ 西アフリカおよび東アフリカ、南アフリカに分布するツルで後頭部の黄色い羽冠がこの名の由来です。

- ニホンジカのふくろ角の皮が完全にむけ落ちました。
- 9 / 23. 動物総合感謝祭が行われ、動物代表として、チンパンジーのオスの“リッキー”(3歳)とメスの“ミナミ”(2歳)が参加しました。
- 9 / 26. ツキノワグマのメスは腰のあたりがとてめかゆそうので、そのため毛も短くなってきているため、麻酔を施し検査をしました。動物愛護週間が終了しました。
- 9 / 27. 北園の池で飼育されているコイに、ウオジラミが寄生したので駆虫しました。ジャガーの発情促進のため、ビタミン剤の

- 投与を始めました。
- 9 / 28. 小鳥舎の暖房を開始しました。
- 9 / 29. 近畿地区動物園獣医師勉強会を開きました。
- 10 / 1. ボイラーの火入れ式が行われ、動物を代表してチンパンジー“リッキー”が出席しボイラーに点火しました。
- 10 / 2. ツキノワグマが交尾しました。トラのオス“ベーター”とメス“ミン”が交尾しました。
- 10 / 8. シマウマ放飼場の土の回虫卵検査を実施しました。近畿地区ダンチョウ会議に出席しました。

# ワライカワセミの飼育と繁殖

なぎごえ22(11), 1986

## § はじめに

秋ともなると動物園を見学に来る幼稚園や保育所の子供たちで毎日が大きいです。そんな子供たちがワライカワセミの前に来ると「わーっ、おもしろい顔した鳥や!!」と大声で叫んで学名札を見て「これがワライカワセミか!!」と言い、その後はみんなで「ワライカワセミに話すなよ〜」と大合唱が始まります。今回は、名前は知っていても姿を知る人が少ない鳥、鳴声が人の笑い声に似ていると知っていても実際にどんな鳴声で鳴くのかあまり知られていないワライカワセミの話を進めていきたいと思います。

## § 飼育経過

昭和54年6月にオーストラリアのメルボルン市と大阪市との姉妹都市提携を記念して2羽のワライカワセミが贈られてきました。ワライカワセミはオス、メスの区別が外見では判断できません。当初ペアだと思っていた2羽が両方とも産卵したのでメスだと分かりました。そこで新たに2羽のワライカワセミを購入し同居させました。その後、染色体によってオス、メスの判定をしました。(表1参照、以下記号を使用します。)

表 1

入園日	個体記号
S.54.6.29	A(メス) B(メス)
S.56.8.12	C(オス) D(メス)

4羽を同居し間もなく、Dが気性があらく、他の3羽と折り合いが悪いため、別ケージに移動しました。その後、毎年産卵は確認されていましたが、一向に有精卵が得られずにいました。A・B・Dがメスだというのは産卵を確認しているので判断できるのですが、果たしてCがオスか?ということになると、多少の疑問もありました。そこで昭和59年に、行川アイランドのオスとDを交換してもらいました。そして、このオスをカゴに入れそれをケージ内に置いて先住の3羽と見合いをさせました。しかし、しばらくするとこのオスはカゴの外から次々と他の3羽からの攻撃を受け、結局数週間後に内出血がひどく死亡してしまい、この見合いは失敗に終わりました。その後、見合いをさせる機会はまだありませんが、他の動物と同様に、同居させる際には相性をよ

く観察しながら慎重に行なう必要があるようです。

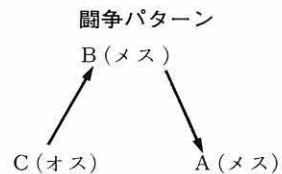
このオスの同居失敗後急にA・B・Cの間で闘争が始まり、Bを別ケージに移動しました。結果としてAとCのペアとなったわけですが、翌60年には交尾・産卵と確認されましたが有精卵は得られませんでした。

飼料として、主にマウスを与えています。一日およそ2〜3匹を食べます。その他にはドジョウを少し大きめの容器に入れて自由に食べることができるようにしています。その他にはヘビ、トカゲ、コオロギ、ミールワーム等もよろこんで食べます。また昨年よりビタミン剤を1日おきに与えています。

## § ペアリングへの経過

前述のとおりA・B・Cの間で闘争が始まったのですが、ワライカワセミの攻撃というのは、その大きなくちばしで相手にまずタックル(?)するか、くちばしで噛むかのどちらかしかありません。足はあまり強くないので蹴ったり、また翼でたくようなこともあります。しかし、あの大きなくちばしの急降下攻撃や、マウスの頭をつぶす位強力な力を持つくちばしで噛みつかれたらまったものではありません。闘争も狭いケージの中で逃げ場がなければ

表 2

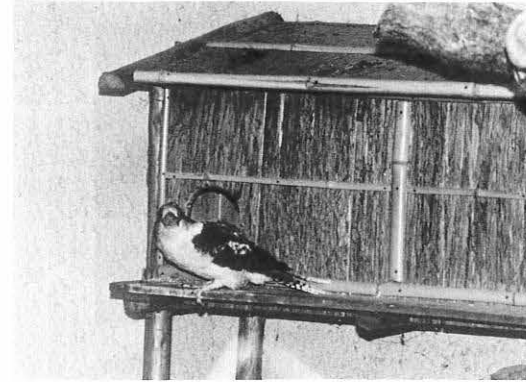


殺されるという事もありうるので、大変やっかいな事なのです。幸い、この時の闘争はさほど大したものでもなく大事には至りませんでした。見ていると表2のようなパターンがありました。矢印の向きが攻撃をしかけている向きで、CはBに対し攻撃をして順位もどうやらCの方が上ようです。同様にBはAより順位が上のような様子でした。この様に順位はハッキリと決まっているのですが、闘争はおさまらずにくり返されていたために争いのないCとAを残してBを別ケージに移しました。“災い転じて福となす”とでも言えればいいのか、これが結果的には今回繁殖に成功したペアとなったわけです。

## § 自然ふ化記録

1986年4月13日の朝からメスが巣の中に入って抱卵していました。巣材は何もなくワラ、枯葉、羽毛

なぎごえ22(11), 1986



巣箱と外の様子をうかがうメス

などを入れてもすぐに出してしまいました。その後14、17日と計3卵の抱卵を始めました。

抱卵は主にメスがしますが、オスも交代して参加します。どちらかが抱卵している間もう1羽の方は見通しのよい枝にとまり、あたりの様子をうかがっていました。抱卵時間はメスの方が少し長い程度ですが、ふ化2〜3日前にはメスのみが抱卵していました。

5月10日にふ化を確認しました。ふ化直後のヒナは全長5cmくらいで体羽もなく目も閉じていて、親に似ているところといえば少し長めのくちばしだけです。以下ヒナの成長記録をふ化後日数をおって書いていきたいと思います。



生後20日目のヒナ

1日目：ふ化確認、鳴声は大きく巣の外まで聞こえる。エサとしてマウス、馬肉(小さく刻んだもの)、コオロギ、ミールワーム、ドジョウを与えたがコオロギを主に食べる。給餌方法は両親が直接ヒナのところに運んで行き食べさせる。給餌時以外は親に抱かれています。

3日目：コオロギの他にドジョウ(4〜5cm)も食

べ始める。

8日目：マウスを食べ始める。

10日目：胸のあたりに羽がはじめる。目はまだ閉じている。足もしっかりしてきた。

14日目：くちばしもしっかりしてきた。上下とも黒色。

15日目：全身に羽がはじめる。色は少し黒っぽいが親とほぼ同じ。ペリットを確認。

20日目：目が開いている。まだ視力はあまりよくない様子。くちばしが短い体つきは親とよく似てきた。

30日目：動作も機敏。マウス6〜7頭は食べる。

32日目：食欲がおちる。マウス2頭を食べる。

33日目：巣立ち。エサはまだ親にもらっている。まだ上手に飛べない様子。

37日目：親と同じように鳴く。

56日目：自分でエサを食べている。



生後34日目のヒナとメス(左)

## § おわりに

今回、偶然のように多数飼育からペア飼育となり結果として繁殖に成功しました。

自然ふ化に使われた巣箱はケージの奥にあり植栽等により多少隠れてはいますが、飼育通路からは巣の中までよく見えます。また、巣のすぐ裏は作業場となっており騒音もすぐ決して良い環境だったとは思われませんが、ワライカワセミのようにテリトリーをもつ鳥にとってはペア飼育という事が何よりも繁殖に必要な要素なのではないでしょうか。

ヒナの成長後、この親子関係がどのようになっていくのか大変興味深い所です。これからも観察を続けまた皆さんに報告したいと思います。

(飼育課：早川 篤)

# 第6次動物交流について

なぎごえ22(11), 1986

9月9日、上海市・大阪市友好都市第6次動物交流のため、大阪空港午前11時発JK793便にて上海に出発いたしました。晴天に恵まれ上海空港に着いたのが午後1時。遠い国と思っていた中国にわずか2時間ばかりで到着しました。

空港では、上海動物園の張副園長、上海市園林局陸副主任等6名の方の出迎えをうけました。まず最初に贈呈する動物、アカコンゴウインコ、キンカジュ、セスジスカンクが無事であることを確認していただき、ほっとしました。

宿舎まではマイクロバスで送っていただいたのですが、最近上海市を訪れる外人客が多く、市内にホテルを準備するつもりであったのが満員で、確保できなかったため、宿舎は動物園の近くでした。空港から動物園前にかけての道路は上下水道、歩道等の工事中で、多くの人達が働いていました。

上海市園林局陸副主任から今後の日程について簡単な説明があり、今夜上海市内でパンダ曲技団の催物を見学する予定でしたが、大阪市経済交流訪中団長新井貞一氏の招宴に動物交流班も出席しなければならないことになり予定を変更し、市内見学することになりました。黄浦公園並びに市の中心街をマイクロバスで見学しましたが、人と自転車の多いのは驚きました。道の全てが日本での歩行者天国という状態です。私達を乗せたマイクロバスはクラクションを鳴らしながら、市内を走りました。

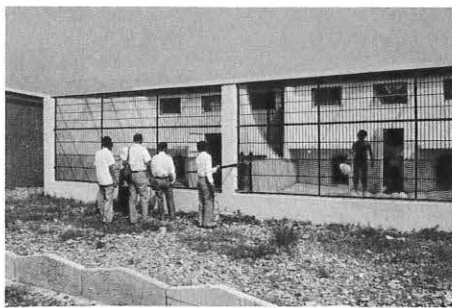
午後6時から市内の錦江飯店にて行われた大阪市経済交流訪中団長の招宴に出席しました。会場で西尾大阪市助役にお会いし、本日第6次動物交流班は無事3種の動物を上海市にお届けすることができたことを報告するとともに、大阪市経済局石川貿易観光課長にこれからの動物交流班の日程を連絡しました。招宴終了後、宿舎に帰ったのは午後8時を過ぎていました。荷解きをし明日からの技術交流資料の整理、贈呈式の挨拶等を考えながら床に着いたのは午前0時を回っていました。



顧文儀上海動物園長の概要説明

翌朝、上海動物園を表敬訪問し、顧文儀園長から今回の動物交流が中国側の理由により、7月の予定が9月に延期になり誠に申しわけなかった、とご挨拶がありました。そして上海動物園の概要について説明をうけ張副園長の案内により園内を見学しました。

動物園の敷地は昔ゴルフ場であったといわれるだ



建設中の小獣舎見学

72ヘクタールの面積内に動物を系統分類学的に展示して見ました。コウノトリ舎、パンダ舎、建設中の小獣舎、人工哺育展示館を主として見学し、午後から技術交流会を行いました。上海動物園側から張副園長、獣医師等6名

が出席され、先ず大阪市から今回の交流で贈呈したアカコンゴウインコ、キンカジュ、セスジスカンクの飼育方法について説明しました。上海動物園では、アカコンゴウインコについては昔飼育した経験があるが、キンカジュ、セスジスカンクは初めてであるとのことでした。セスジスカンクについては臭い袋の除去手術についての質問があり、手術方法については、持参していた資料を配布し説明しました。次に大阪市側から上海動物園で繁殖に成功しているコウノトリの飼育方法について質問したところ、繁殖に重要なことは羽数ではなく良い個体を選ぶことが非常に重要であり、繁殖にはコウノトリ舎はあまり大きくなくてよく、特に冬期に北風をさけるため北西側に風よけの壁を作り、南東側はオープンにし、風通し日照をよくすること、巣台は高いところではなく低いところでよい、繁殖センターでは地面に巣材を集め産卵して



技術交流

当園の新設されたヒビハウス、モンキーハウス説明している、産卵した場合は人工ふ化の方法がよい、ふ化させるには摂氏37℃、湿度60%で、ふ化後ヒナに与えるエサは

けあって、芝生や樹木も多く平坦な敷地内には池もあり、変化があります。



人工哺育展示館

なぎごえ22(11), 1986

生玉子、ミルク、バナナ、魚、ミルワームをすりつぶし、うらごしにし、30℃以上にあたためたものを注射器で与えることが重要であるとのことでした。

次に、来年いただくアジアゴールデンキャットを展示するため当園では新しい小獣舎建設を現在検討中ですが、この設計図案を差し上げ、上海動物園でも建設中の小獣舎の参考にされては、と説明しました。

次いで、上海動物園側から本年新しいサル舎を新設されたそうだが、詳細について教えていただきたいとのことでしたので、持参したサル舎の写真並びにパンフレットを配布し、施設、設備、管理方法並びに第5次動物交流でいただいたフランソワルトンもここに展示され、繁殖もし、大阪市民から非常に喜ばれていることを説明しました。

そして、上海動物園側から繁殖した動物の人工哺育の様子を子供達に見せ、教育面にも力をいれたい、と新設した展示館について説明がありました。



技術交流にお互いに熱中していたため予定時間をオーバーし繁殖センターに着いたのは午後4時を回っていました。非公開の場所でもあり是非見学したいと希望していただけに、まづコウノトリ舎の説明を所長からうけました。高さ約8m、直径約10mの円型ドームのケージ内でコウノトリが繁殖していました。巢も地面に作られており、内部には植栽も多く、池もありコウノトリがケージ内を飛べる状態ではありません。北風を防ぐため北西側には壁を南東側はオープンにし風通し日照を考えています。また市街地から離れた静かな環境が繁殖にも大いに影響しているようでした。



繁殖センターのコウノトリ

繁殖は世界一というだけあって10数頭が飼育されてお

キンシコウは3頭いましたが、私がコウベグリーンエキスポで見たのよりずっと大きく、雄の立派な姿には驚きました。現在、アメリカに2頭貸し出しているとのことでした。ヨウスコウワニは自然の池をうまく利用し、自然繁殖に成功していました。また、ゴールデンターキン

り、今後も繁殖を続けることと思われます。

動物園から約2km離れた静かな環境のところにて面積4ヘクタールの繁殖センターをもち、中国の一级保護動物の繁殖を手がけているのを見学し、当園でも将来是非こういった施設が必要になるであろうと痛感した次第です。



動物贈呈式

淡家上 淡家上海市人民代表会常務委員会副主任とテープカット海人民代表会常務委員会副主任、孫上海市外事弁公室副主任、呉上海市園林管理局長、加藤上海日本領事館副領事等の出席のもとに動物贈呈式が挙行されました。司会は上海動物園張副園長で、席上、上海市側を代表して呉園林管理局長から大阪市に対してご挨拶があり、大阪市側から第6次動物交流班を代表して私がご挨拶した後、子供達から動物交流班に花束の贈呈がありました。



南京動物園

2頭のキリンが向いあったキリン舎 当日、新聞、テレビ等報道関係者の取材もあり、この贈呈式の模様は夜のテレビニュースでも放映されました。私達一行は、その後、南京動物園、北京動物園で見学並びに技術交流を行ない、9月18日無事帰国いたしました。今回の訪中を通して数多くの中国の先生方とお会いする機会を得たことがなよりの糧となり将来に役立つことと思います。上海、南京、北京の各都市の動物園を見学し感じましたことは、各園が、動物園の役割である4つの場、市民の憩いの場、教育の場、研究の場、自然保護の場になるよう力を入れていることでありました。

また、第6次動物交流を通して、大阪市と上海市が友好都市として強い絆で結ばれていることも痛感した次第であります。

終りに今回の出張にあたり、いろいろお世話下さいました方々に心からお礼を申し上げます。

(飼育課長：伊藤 重朗)

# キーパーズアイ ③9

## ☆ 警察犬も顔負け！

ある日の午後、いつものとおり人工哺育で育てたチュウゴクオオカミの「美美」と園内を散歩していました。ゴリラ舎の前まで来ると急に無理矢理私を引張り、植え込みの中に飛び込んで行きました。植え込みから出てきた「美美」の口には、しっかりと赤いブラシがくわえられていました。

何とこの赤いブラシは毎日「美美」のブラッシングのために愛用していたものでした。3週間ぐらい前に紛失し困っていたのです。長い間愛用しており、「美美」自身の匂いがしみついていたのでしょうか。それともこの赤いブラシが忘れられなかったのでしょうか。それにしてもオオカミの嗅覚の鋭さには驚くばかり。警察犬、顔負けの「美美」の活躍でした。

(飼育課：丸本 守)



(イラスト：山下奉之)

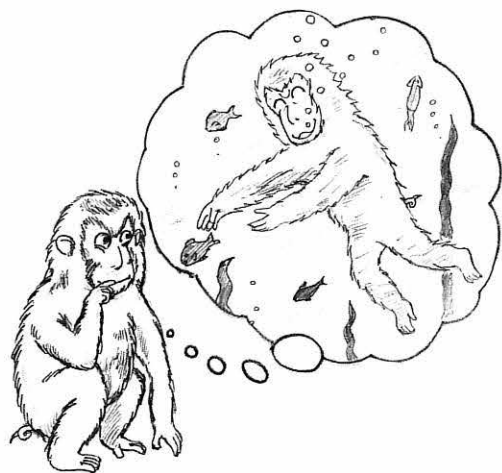
## ☆ ブタオザルの潜水

今、モンキーハウスの予備室で飼われているブタオザルのオスは以前堺市で保護され、新聞を賑わしたサルです。当園に預けられ、同種のメス3頭と同居させたのですがうまくいかず、一頭で飼うことになりました。そこでサマースクールなどで役立つように調教し、人間に慣れさせることにしました。人に慣れたことによりいたずらをしたり、なんでも食べたりして困ったこともありました。

そのサルが夏の暑い時に体を洗うため、90ℓは入るプラスチックの大きな容器に水を張り、遊ばせていると、急に潜水し、泳ぎ始めたのです。サルが潜水して泳ぐなんて聞いたことがなかったので、ビックリしましたが、おもしろいので暇があれば水を張ってやると、喜んで飛び込み、潜ぐってはコインを口にくわえてひろってくるようにまできました。今後も練習をつんで立派な潜水夫になって来年の夏には皆の前で潜ぐって見せてくれることでしょう。

“乞うご期待”

(飼育課：原田 勉)



(イラスト：藪野幸司)

# 動物園ニュース

## § 上海動物園と第6次動物交流

9月9日朝、上海動物園との動物交流として、アカコンゴウインコ、セジロスカンク、キンカジュウそれぞれ2番が2名の当園職員と共に出発しました。大阪市と上海

市との友好都市提携を記念して1974年から始まった動物交流も今回で6回目をむかえました。その間、多くの動物たちが、両園の友好のために役立ってきました。今回贈られた3種12頭の動物たちも上海のみなさんの人気者になることでしょう。上海側からは来春、コウノトリとアジアゴールデンキャットが贈られてくる予定です。

## § 動物総合感謝祭、開催

恒例の動物総合感謝祭が、動物愛護週間中の秋分の日9月23日に大阪動物愛護会の主催により北園慰霊碑前で行なわれました。大阪動物愛護会の名誉会



長・岸富美子大阪府知事夫人、名誉副会長・大島直子大阪市長夫人、来賓の方々に続いて動物代表のチンパンジーの“リッキー”と“ミナミ”の2頭が玉串奉奠を行ない、この一年間に亡くなった動物たちの霊を慰めました。

また、9月20日から26日までの動物愛護週間には、連日サイ舎前で当園獣医師と開業獣医師の皆さんによる無料動物相談が行なわれ、期間中に34件のイヌやネコ、小鳥などの相談がありました。

## § 暖房用ボイラー火入式

10月1日の衣替えに合わせて、暖房用ボイラーの火入式を行ないました。安全操作を願ってチンパンジーの“リッキー”が点火棒でボイラーに点火しま

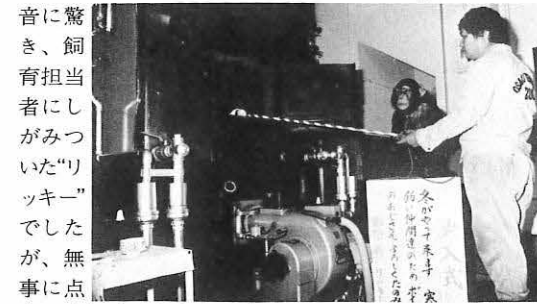
★.....★.....★.....★.....★.....★.....★.....

## 現在の飼育動物数

(1986年9月30日現在)

哺乳類	13目	110種	458点
鳥類	20目	177種	653点
爬虫類	3目	34種	61点
計	36目	321種	1172点

した。“リッキー”にとっては昨年に続いて2度目のお役目でした。ボイラーに点火された瞬間の大きな音に驚き、飼育担当

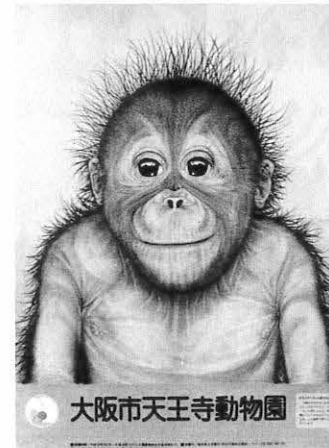


者がみつけた“リッキー”でしたが、無事に点火の大役をはたしました。

この日から、寒さに弱いワニやヘビなどは虫類、ゴリラやチンパンジーなどの類人猿、カバなどの暖房が順次開始されます。来年5月中旬までの暖房に重油約170キロリットルが必要です。

## § 新しいポスターができました!!

秋の動物園まつり用として、新しいポスターができました。今回のポスターは今までの趣の異なったイラストのポスターです。モデルは今年4月27日に



大阪市天王寺動物園

生まれたオランウータンのオスの赤ちゃんで、イラストはオーストラリアのメルボルン動物園のポスターを手がけてこられたデイビット・ヒギンズ氏によるものです。B2版のポスターに大きく描かれた細密なイラストは、実物を思わせるほどすばらしく、地下鉄や国鉄の駅に張られていますが、只今人気上昇中です。

## ● お知らせ

動物のお話とスライドの会

11月16日(日) サルの飼育と人工哺育の話

12月7日(日) 動物園の一年あれこれ

1月18日(日) 干支にちなむウサギのお話

時間：午後1時～2時

於：北園レクチャールーム

## \* 休園日のお知らせ \*

動物園の休園日は毎月第3日曜日です。12月までの休園日は下記の通りです。

11月17日(月)、12月15日(月)、

年末年始は、12月29日(月)～1月1日(木)まで休園いたします。

開園時間は、9時30分から5時までで、4時に切符売止めになります。



## ゆとり満喫、信頼のカード。

ショッピングから海外旅行まで、  
1枚のカードでワイドにご利用いただけます。  
近鉄がDCおよびVISAと提携した便利な新カード。

近鉄グループカード **KIPS**  
(キップス)

◎国内・海外のDC加盟店すべてに通用。  
◎近鉄百貨店グループをはじめ、都ホテルチェーンなどでの  
ご利用にはいろいろな特典が。

**近鉄百貨店**

お問合せとお申込みは 各店クレジットセンターへ

●アベノ店7階 ●上本町店10階 ●東大阪店本館 ●奈良店4階 ●西京都店1階  
(京都ファミリー)

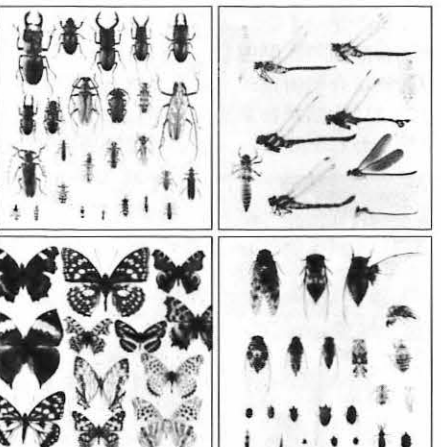


●オールカラー  
**むし**  
くらしとかいかた

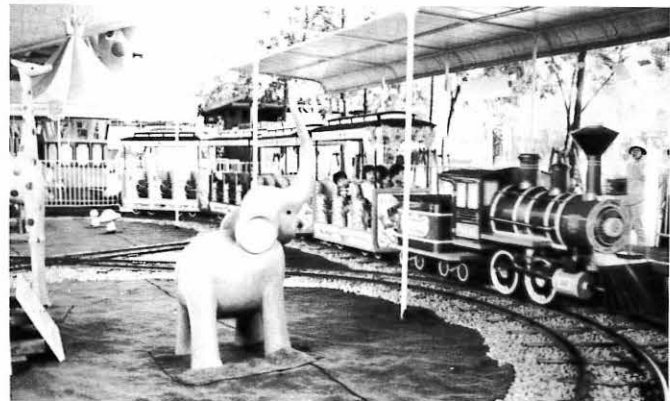
今まで、気にもとめなかつた自然の中で昆虫たちが生きている。みんなも、虫になって自然の中を歩いてみよう。きつとすばらしいことに出会えるはずだ。

85変形 580円  
84ページ

ひかりのくに株式会社  
〒543大阪市天王寺区上本町3-2



## たのしいのりもの、が待っています。



1人1回  
100円  
(1才まで無料)

団体割引  
(30人以上)  
……1割引

久竹娛樂株式会社  
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

## いま、フィルムは 頭脳をもった。



高画質時代をリードする

はるかに美しく

**フジカラー SUPER HR**

カラの大林

桜橋本店 ☎341-8091  
三番街店 ☎372-5031



- 貸出品目/ビデオ「動物園へ行こう」  
①巻・20分(10本常備)
- 対象/保育園、幼稚園、小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し、郵送料450円は必要)
- 申込先/当協会まで、電話かハガキでお申し込み下さい。

動物観察の手引に

天王寺動物園  
ガイドブック

のご購読をおすすめします。  
(1冊¥450)園内各売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会

〒543/大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

動物文学会主宰 平岩米吉著

新刊

# 猫の歴史と奇話

(定価・2600円)  
A5判・260頁  
口絵挿画・113図

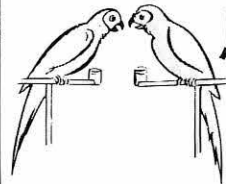
猫に関する古今東西の科学と文献を網羅し、しかも平易な文章で綴った猫の宝典。著者の三十余年にわたる収集研鑽の成果、ここに結実。

☆学術書でありながら、推理もののように愉しく読める猫の本  
☆架空の伝説は別に、猫の珍しい実話400余を収載

## 主な目次

- |                                     |                                       |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 第一章 猫の歴史<br>欧州は古代エジプト、日本は宇多天皇から近世まで | 第二章 猫股伝説<br>老猫化けてさまざまな怪異をなす           |
| 第三章 猫の報恩談<br>蛇を咬んだり、金を運んだりする        | 第四章 野性猫の存在<br>裏日本の山猫、離島の山猫、鬱陵島の猫の渡来など |
| 第五章 猫の奇話(上)<br>長命、多産、三毛猫などの形態の奇話    | 第六章 猫の奇話(中)<br>長距離の帰家記録や鼠を育てるなど不思議な行動 |
| 第七章 猫の奇話(下)<br>マタタビを媚薬とする奇妙な習性など    | 第八章 益獣としての猫<br>あらゆる角度から猫の生態と効用を探究     |

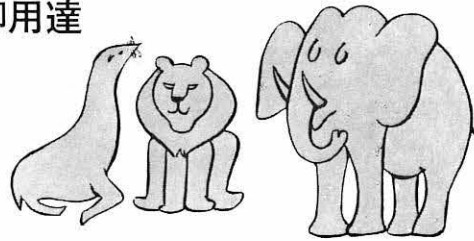
発行 動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話(03)717-1659・振替東京5-9800  
発売 (株)池田書店 東京都新宿区弁天町43番地 振替・東京4-165425



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

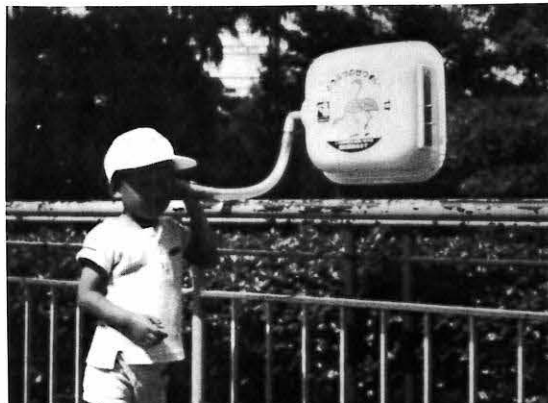
- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号 電話(078)221-8195(代)  
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

たのしい動物のお話は、  
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎  
30数ヶ所にあります

関西特機株式会社  
電話 06-762-2333  
1回 20円

## 動物園内での

## お食事、ご休憩は

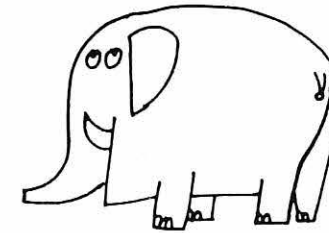
大阪市天王寺動物園内

## 中央売店

☎ (06) 771-0973



## 天王寺動物園内



## 南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶臼山町6-74  
電話 (06) 771-7110番

## 園内での写真は…

## 動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機しておりますので説明に伺いました際は、よろしくお願ひ致します。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます。  
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社  
TEL 06-856-7444



新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。



果肉とソフトヨーグルト  
の名コンビ



# 雪印ヨーグルト

●ブルーベリー・キウイフルーツ・ストロベリー・オレンジ・カクテル

自然の  
おいしさ

野生動物をみんなで守ろう

## WE SUPPORT WILDLIFE!

天王寺動物園協会の売店に“WWF国際保護動物ぬいぐるみコーナー”が新設されました。このぬいぐるみの売上げの一部はWWFJ(世界野生生物基金日本委員会)に寄付されます。すばらしい野生動物を私たちの手で大切に守りましょう。

ぬいぐるみ販売コーナー新設

お申込み、お問い合わせは——

社団法人 大阪市天王寺動物園協会  
(天王寺動物園内) TEL (06) 771-0201

株式会社 ファミリア商事部  
TEL (078) 321-0345

●お電話でのお申込みは動物園協会まで。  
なお、郵送の場合は実費を負担していただきます。



●WWF(WORLD WILDLIFE FUND)とは?  
世界野生生物基金。世界中の危機に瀕している動物たちと、その自然環境を保護するための機関です。



なきごえ 昭和61年11月10日発行(毎月1回10日発行)第22巻 第11号 (通巻255号)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 中川道順

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部) 1,100円(送料共)

編集委員

(土井良彦/伊東重朗/藤野勝吉/樽本 勲/中川哲男/前田豊彦/宮下 実/長瀬健二郎/榊原安昭/森本委利)  
(大野尊信/山下奉之/農本武志/野口秀高/早川 篤/数野幸司/堀 弘/大川光雄)

〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 37823